

腰部展開に関する研究

京都女大家政 紀 宇子

目的 衣服設計に関して、まず胴上部並に袖の平面展開と面積について検討を行ったので、ついで、下半身用原型について腰部展開に関する研究を行った。下半身用衣服の設計においては、その支点となる胴部から腰部にかけては、人体のほぼ中央に位置し、造形上外部線の焦点ともなる確実な体型把握の必要な部位のひとつである。腰部形状の把握を目的として、レプリカによる平面展開図、および面積により体型の類別化を試みた。

方法 資料は、19～22歳までの青年女子54名の下半身原型に関係ある身体計測値、同一個体のレプリカによる腰部の平面展開図、平面展開図より得た腰部面積である。以上の項目より相関行列に基づく主成分分析を行ない、その結果からクラスター分析により腰部の類別化を試みた。

結果 平面展開図の長径項目、腰部面積項目、計21項目について相関行列に基づく主成分分析を行った。その結果主成分軸のバリマックス回転後の因子負荷量の個有値が1以上を示す主成分は4つあり、第1主成分は、腹囲～腰囲と、胴囲～腰囲の平面展開図と面積の合成変量の因子軸、第2主成分は胴囲～腹囲の平面展開図と面積の項目の因子負荷量が高い軸、第3主成分は面積後部の因子軸、第4主成分は面積前部因子軸であった。

クラスター分析の結果、腰部面積では胴囲～腹囲と、腹囲～腰囲の面積によって類別がみられた。